

日中韓フォーサイト事業
中間評価（令和2（2020）年度採択課題）結果

日本側拠点機関名 慶應義塾大学(教授・中澤 仁)
研究交流課題名 知能IoTを活用した東アジアにおける高齢者のライフスタイルと福祉の強化

評価結果（総合的評価）	
☐ S	想定以上の成果をあげつつあり、当初の目標の達成が大いに期待できる。
☐ A	想定どおりの成果をあげつつあり、現行の努力を継続することによって目標の達成が概ね期待できる。
☐ B	ある程度の成果をあげつつあるが、目標達成のためには一層の努力が必要である。
☐ C	成果が十分にあるとは言えず、目標の達成が期待できないため、経費の減額または中止が適当であると判断される。
所見	
本課題は、社会全体の傾向や将来予測を可能とする技術とを組み合わせた知能IoT技術を用いて、高齢者のライフスタイルとウェルビーイングを強化する社会を構築することを目指すものである。最初の二年間はコロナ禍ではあったものの、定期的なセミナーやワークショップ、国際集会などの会合は行われており、オンラインを活用してさまざまな努力を行なったものと窺える。また、若手育成に関しては、大阪大学と早稲田大学の大学院生がそれぞれ韓国・中国の大学に1ヶ月程度滞在し、研究交流を行っており、三か国間での若手研究者の研究ネットワーク構築も行われている。 一方、三か国間での研究者の交流を主眼とする本プロジェクトが十分に行えなかったことはコロナの影響もありやむを得ないとはいえ、現時点の結果としては研究交流拠点の構築や若手研究者育成への貢献が十分には行えていないと判断せざるを得ない。今後の計画の中では共同研究に関し派遣・受け入れに消極的であるが、コロナ影響が少なくなった2022年度前半にいくつかの活動が行えるようになっていくことから、ポスドク等の若手研究者を共同研究に巻き込む等して、後半で積極的な活動を通じて所定の成果が出ることを期待する。国際共著による成果がまだそこまで多くないので、今後そちらも進めていただきたい。	